

いりん倫

第2号

令和2年4月

立校業組会
市中学卒
酒田一中
昭和40年
第3期
同

阿部茂先生、赤部先生

ご無沙汰しております

阿部茂先生、赤部先生大変ご無沙汰を致しました。半世紀を経てこうして新聞という形でありながら再会できましたこと感無量であります。酒田第一中学校昭和四十年卒業の我々の絆が切れることなく、また復活いたしました。このことにも驚いておりますが、両先生からメッセージをいただきましたことに大変感謝をいたしております。ありがとうございます。

学級新聞発行おめでとう。

阿部 茂

右手が不自由で文字が書けないのでごめん
なさい。

充実した内容の新聞ができて、皆さんの努力が紙面から伝わってきて楽しい時間が過ぎました。

関係した皆さんによりくお伝えください。

私の中学時代の英語

赤部 寛

「寛、停車場に行くならば、これ持ってくれ」と近所の爺さんに言われた。

「OK!」と言うと、「何だこのヤロー。大人をバカにしゃがって英語なんか使え」といきなりスコン。

ある暑い休日だったように思う。習った英語を使ってみたくてここで使えるか考えた。

そうだ。「酒田駅に進駐軍がいる。」ときいた。(当時家は余目) 酒田に行くと汽車に乗る。



いつの同級会でしょうか？知っている人おられますか？

阿部茂先生のお見舞いにつぎました

山本 直繁

3年1組の皆さん、長寿を目指し日々充実した生活を楽しんでお過ごしのこととお慶び申し上げます。

学級新聞創刊時には近況報告できず、白川君頼ってしまい大変申し訳なく思っています。

去る2月27日に恩師阿部茂先生をA病院に見舞いに訪問し、お元気なお姿を拝見し、又、新聞への寄稿文も頂いて参りました。奥様も同席され、色々とお話しできて良かったです。

この新聞が発行される頃には、先生も退院して、元気に通所サビースを利用されているかと思ひます。

さて、私事ですが、昨年暮れに、胃の摘出手術を受け、職場復帰したものの、また1月には急性咽頭炎で再度入院し、2月は自宅療養し、3月から職場復帰の予定ですが、この先どうなるか判りませんが、抗癌剤治療して以前のように煙草や飲酒できるよつになりたいものだと思っています。

70年も生きてきて内臓疾患を病むのは初めてなので、年令とともに肉体は疲弊しているのだとつくづく考えさせられました。ます、肉体の老化は仕様がなしいとしても、精神力だけは老化しない



第1回同期会にて
横山君と小野君と3人でこの後に飲みにいきましたよね～(平澤)

よう、とりあえず、喜寿を目指して頑張るつもりです。

どうぞ皆さんもご自愛ください。

追伸、

この新聞発行に際してご尽力下さった、白川君や平澤さん始め、皆様に心より感謝申し上げます。

先日昔のアルバムを見ていたら、このような写真がありました。

何かのお役に立てばと思い、同封します。

全員の名前は判ると思ひますので省略します。何年前か判りますか。

(白川記)

高校卒業後の正月かも知れませんが、とすると、昭和44年1月。この頃はまだ1中時代とあまり変わっていませんね。どこで集まったのか、どんな話していたのか、全く思い出せないのです。斎藤誠君、元氣そうな顔していますね。

横山さんの記事を読んで

工藤(佐藤)由紀

前回の横山さんの記事を読んで…。

横山さんの奥様の歳をとつたら「きょうよう」と「きょういく」が大事とありましたのでああ!! と思いました。

2年前前に町内の老人クラブの会長に同じ事を言われた時、私の中ではこの場に及んでどんな教養と教育を身につけるのかしらと身構えた覚えがあります。なんの事はない現在の私の状態なのです。今日、用事があつて今日、行く所がありますかという事だったので。

月々金でサロン、スポーツ、ゲーム、カラオケ、コース等々、ちよつとのつもりが抜けられない状態。本音はゆとりの時間がほしい!!

ここ数年の間に長寿社会の健康寿命を伸ばそうとの取り組みがあるんですね。参加できるだけでも幸せと感じなければね。トホホ

テニスがんばってます

篠田(伊藤)美智子

お元気ですか。私は毎週土日テニスコートにいます。小学生に教えたり、遊んだり。遅くなりましたが、購読料を送ります。

アマリリス咲きました

日下部(本間)由美子

白川君、平澤君、皆さん、こんにちは。

「すばらしいものが、この地上にいる

いたい何であるうか、人間である」この一文こそ私は心を打たれ、今後の長いであろう人生のはげみになると思う。

世界中が大変な事になってきてますが。

酒田にいても、出かけたラサッサと帰宅！北国で暮らしていると、冬は毎年力せびきには十分気を付けないと大変な事になりますからね。

今まで何なく心細い日々です。でも我家のアマリリスがのつばに咲きました。見てるだけで元氣になります。



阿部茂先生、早くお元氣に！

平澤 隆志

第1号で赤部先生の思い出を掲載せられたもうたら日下部(本間)由美子さんと大鳥(斎藤)敬子さんから「赤部先生お元氣」情報が届いた。

そして、赤部先生に白川君から新聞を送付していただき、大変喜んで下さったと聞いて、涙が止まりませんでした。

また、阿部先生のご様子も山木君が入院中の先生を訪問してくれて連絡をいただきました。本当に嬉しいです。早くお元氣になてみんなでお会いしたいものです。待っています。

赤部先生の思い出、第二弾。

新聞が優秀賞をいただいたことは前に書きましたが、その表彰式が余目町でありました。その帰り道に表彰式に参加した生徒全員で赤部先生のご実家へ寄つてお昼にしたことを思い出します。赤部先生のお母さんが漬け物を出してくれて…、旨かった。この部分はあまり自信がないのですが、

また、先生は本当に歌が上手かったです。授業中に「怒をあけろば、港がみえる」と淡谷のり子の「別れのブルース」を熱唱したことがありました。淡谷のり子がテレビに出てこの歌を歌つてあつた。赤部先生の好きな歌だ！と思ったものです。

阿部先生へ

白川 修

前略 大変長いことご無沙汰して本当に申し訳ございません。

こないだ、山木君が病院に先生をお訪ねした時電話を替わってくれて50年ぶりくらいにお話しでき、本当に嬉しゅうございました。なんでもこんなに長い間お話しする機会がなかったのだから、悔やまれてなりませんでした。

1中を卒業してから、いつでも先生に会えるという甘えがあったような気がします。

そんなわけで、中学時代のドンくさかった私が、漁業の世界に足を踏み入れるまでのことを遅ればせながらご報告させていただくことにします。

子供のころから運動神経が鈍く、小学校の体操の通信簿は入学してから卒業までの6年間、ずーっと3でした。それなのに、1中では庭球部に入っていました。なぜだったのかよく覚えていませんが、4つ上の姉の同級生が庭球部だったか

らかもしれません。

1中の庭球部は4年上の先輩たちは高校総体でも準決勝まで進む程の強豪でしたが、私達が入学した当時は2中、3中に圧倒されていました。3年の時は伊藤博、伊藤百樹、島海豊、佐藤正広等上手な仲間がいて、私も彼らに引つ張られて、県総体の酒田予選では私を含む4チームが個人戦でベスト4を独占し、団体戦も宿敵2中に勝って優勝、そのまま県大会でも優勝してしまったのです。

すっかり調子に乗って、高校でも庭球部に入ったのですが、元が元ですからまったく芽が出ず、2軍どころか後輩にも追い越される始末でした。美智子さんや、元木さんが高校でも活躍しているのがまぶしく見えたものでした。それでも、3年間続けました。

大学は鹿児島の水産学部に進みました。父は8人兄弟でその内3人は水産系に進学しており違和感はありませんでした。ちょうど「作る漁業」が流行りだした頃でそれに惹かれ、世の中の役に立てるような気がしたのです。漁船乗りになる気はなく、増殖学科を受験しましたが落とされて2次

志望の経営学科に進みました。

3月の酒田はまだ根雪が解けたばかりだったのに、鹿児島駅に降り立ち生暖かい空気に「遠くに来たもんだ」と改めて思いました。学生生活を始めてみると、鹿児島の人々の庄内人の私に暖かく接してくれるのに驚きました。西郷南洲と庄内藩との強い結びつきがあったのです。その頃日本の水産業は遠洋漁業が全盛を迎える時代で、水産学部でも船に乗って漁場に出てゆくことを一番とする空気が強く、私は運動神経は鈍いのに、筋肉ばかりついていてはた目には漁師に似ているように見えたのでしよう。周囲の誘いに、つい勇気を出して大学2年の10月専門課程に進級する時漁業科に転科しました。

学部4年を終えたのち、1年間専攻科で大型船の海技資格のための乗船実習を経て、卒業と同時に国家試験に合格し、海技免許を取得して、1973年4月に大洋漁業に入社しました。

この後のことは、又、少しづつご報告させて頂きます。先生のご回復とまた皆さんで会えることを心から願っております

創刊号のメッセージ

ありがとう



戸次温子さんから

学級新聞ありがとうございました。楽しいですね。この年齢になってこういう形でつながれるなんて。

これから少しずつ投稿が増えるといいですね。「曇倫」難しいけど良い名前です。お世話様でした。

阿部由美子さんから

新聞ありがとー、懐かしく読みました。先生が入院していたのもびっくりですが、元気にがんばって欲しいですね。

日下部由美子さんから

いりん、届きました！何と立派で素晴らしいこと感激しています。平澤君には礼どのように伝えたらいいかな。

篠田美智子さんから

記念すべき新聞ありがとうございます。懐かしい写真があり名前が出てきたりこなかったり。

島居塚順子さんから

新聞のご発送ありがとうございました。カラー刷りに驚き、コストはいかほどやら、と心配になりました。

白川君の声掛けから1年余り、漸くござ着けましたね。半世紀を超えて3年1組が再び繋がりました。奇跡です。本当にありがとうございます。更に大きな輪に広げたいですね。

ご住所の不明な方にもお届けしたいですね。購読料の500円、現金書留でお送りするのは、お会いできる機会があれば嬉しいのですが…

伝言板

●連絡先

創刊号でお知らせした方々のうち、佐藤(石塚)省三さんの連絡先がわかりました。その他の方の住所ご存知の方、ご一報ください。酒田にいる方も多いと思うのですが、街で出会ったりすることはありませんか。

●購読料

第2号は阿部先生からのご寄付を印刷代に充てることが出来ました。郵送の切手はクラスの同級生からの寄付です。その他、多くの方から前払いで第3号以降の購読料をいただきました。ご協力に厚くお礼申し上げます。未納の方はどうぞよろしくお願いいたします。

●記事投稿

皆様からの記事をお待ちしております。すでに投稿された方も、遠慮せずにどんどん送ってください。まだ投稿していない方はぜひ、紙面を賑わせてください。闘病、リハビリ中の阿部先生の日も早いご回復を祈って、励ましの手紙書いてみませんか。

●最近の1中

1中は平成23年3月に閉校し、同時に閉校した5中を統合して同年4月に生徒数538人で開校しました。令和2年度は約370人とのことです。私達は1学年で550人位いましたから夢のようですね。最近は3中、4中の生徒数が多いそうです。

編集後記

第2号がこんなに早く発行されるとは夢にも思いませんでした。皆さんから第1号へのメッセージが届き、そして阿部茂先生と赤部先生からもメッセージをいただき、もつこれは皆さんにお知らせねばの白川君の熱い思いが、第2号発行となりました。

日下部さん、大鳥さんからは、現在の一中の写真を送ってもらいました。雪の中ご苦労様でした。また、山木君からは懐かしい写真を送ってもらいました。いつの同級会でしょうか…。みんな若くて可愛い！！

皆さんのアルバムの中にも、懐かしい写真が眠っていませんか？ぜひ送って下さい。文章だけの新聞は読むのにきつくなってきたいるお年頃。写真は歳をとらずに見るだけで嬉しく楽しくなりますよ。

この分だと、また第3号も…ということになるかもしれませんが、原稿が続く限り一生懸命作り続けますよ。(平澤)

横山昌史君から
電話で

工藤由紀さんから
電話で

高坂さんにも
感想聞いてみます。

大鳥敬子さんから
ハガキで



学級新聞「曇倫」ありがとうございました。「いりん」は人名だったのですね。ぼんやり、自分の事はばかり考えて過ごしていた私は、今回初めて意味、由来等知った様に思います。卒業して半世紀以上経った今、又こうして三年一組の学級新聞を手元に。すごいことですね。お二人に感謝です。

ありがとー！！
今回の創刊号を読んで投稿してくれる人が増えるでしょうね。

白川さん、平澤さんのお二人には負担をおかけしますが次回も、期待してまいります。お元気で！